

期間限定
公開

コレクション展示

ピカソ ゲルニカ（タピスリ）

Picasso:
Guernica Tapisserie
2025 7.19 SAT
— 8.31 SUN



当館はパブロ・ピカソ《ゲルニカ》（油彩画、1937年）をタピスリ（つづれ織りの壁掛け）にした《ゲルニカ（タピスリ）》（1983年）を所蔵しています。染織作品であるタピスリは光に弱いので、年に1度、期間を限定して展示しています。

パブロ・ピカソ《ゲルニカ（タピスリ）》1983年（原画は1937年）タピスリ・ウール、綿 328.0×680.0cm
（織り：ジャクリヌ・ド・ラ・ボーム＝デュルバック）展示風景

《ゲルニカ（タピスリ）》について

ピカソや同時代の画家たちは、建築と芸術の統合を求めて、自身の絵画作品を室内に飾るタピスリにするプロジェクトに取り組みました。ピカソは様々な織物工房と協働して作品をタピスリに再現しています。そのひとつがこの《ゲルニカ（タピスリ）》です。《ゲルニカ》をほぼ原寸大に再現したこのタピスリは、1950年代後半から1980年代にかけて3点作られました。第1の作品はニューヨーク国連本部の安全保障理事会議場前に飾られ、第2の作品はフランスのドイツ国境に位置し第二次世界大戦の激戦地であったコルマルのウンターリンデン美術館が所蔵しています。第3の作品が当館に所蔵されているものです。

ピカソ《ゲルニカ》について

スペインは1930年代に王制から共和制に移行すると、フランコ将軍が右派の支持を受けて台頭。ナチス・ドイツなどの支援を受けて反乱を起こし、スペイン内戦が勃発します。1937年4月26日、バスク地方の小都市ゲルニカで、フランコ軍を支援するナチス空軍によって市民に向けて無差別空爆が行われました。当時パリで活動していたピカソは、祖国で起こったこの蛮行に激しい怒りを覚え、わずか1ヶ月ほどで縦3.5m、幅7.7mの大作《ゲルニカ》を完成させました。同年5月にパリ万国博覧会のスペイン館で初公開されたこの作品は現在、スペイン・マドリードの国立ソフィア王妃芸術センターで見ることができます。

会場 群馬県立近代美術館 展示室 2

開館時間 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

会期 2025年7月19日（土）～8月31日（日）

休館日 月曜日（ただし7月21日、8月11日は開館）、7月22日（火）

観覧料 一般300（240）円、大高生150（120）円

*（ ）内は20名以上の団体割引料金

*中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料